



ONT

エコシステムホワイトペーパー



目次

1	概要	2
---	----	---

2	オントロジーコモンとオントロジーカスタム	4
	オントロジーコモン	2.1
	オントロジーカスタム	2.2

3	エコシステム概要	10
	エコシステム	3.1
	エコシステムの基本設計概念	3.2
	オントロジー連携エコシステム	3.3

4	テクノロジーエコシステム	18
	テクノロジーエコシステムメンバー	4.1
	テクノロジーエコシステム開発原則	4.2
	テクノロジーエコシステム開発方針	4.3

5	ガバナンスエコシステム	23
	ガバナンスエコシステムメンバー	5.1
	ガバナンスエコシステム開発原則	5.2
	ガバナンスエコシステム開発方針	5.3

6	アプリケーションエコシステム	27
	アプリケーションエコシステムメンバー	6.1
	アプリケーションエコシステム開発原則	6.2
	ガバナンスエコシステム開発方針	6.3



概要

—


オントロジーは、オープンソースであり、互換性がある分散型信用エコシステムを構築する新マルチチェーン公共プラットフォームです。

信頼できるエコシステムの構築はオントロジー開発の核心であり、特にテクノロジー、アプリケーション、ガバナンスに関連します。しかし信頼できるエコシステムを構築することは根気のいる大がかりな作業です。

はじめに、オントロジーは知識による貢献を重視します。オントロジーは世界をリードするブロックチェーン技術チームによって率いられ、現地や世界の提携企業の技術専門家をまとめます。

次に、オントロジーはアプリケーション開発を重視します。オントロジーは、サービス供給者がブロックチェーン技術やその他の基盤技術を以前より知らなくても、幅広いビジネスシナリオに合わせて分散型インフラストラクチャを提供できます。

三つ目に、オントロジーはチェーン、システム、クロスインダストリー、アプリケーション、および端末間で動作するエコシステムの拡張を重視します。さまざまなプロトコルとモジュールを使用して、多種多様なビジネスシナリオをサポートするために、データと情報が連結されています。



オントロジーコモンと オントロジーカスタム

オントロジーの目標は、現実世界と分散型デジタル世界に橋渡しをすることです。オントロジーは、基盤となるインフラストラクチャとなり、ブロックチェーンの世界的な採用において中心的な役割を果たします。

オントロジーは異なる国、仕組み、セクターの要件を考慮し、それに応じて「オントロジーコモン」と「オントロジーカスタム」を設計しています。

オントロジーコモン

1st オントロジーコモンの設計

基礎となるインフラストラクチャとして、相互運用性のために、共通の用語と概念の組み合わせが必要で、これを実現するために、オントロジーは参加者のコンセンサスを得るための一連の標準化モデルを提供します。

単一のビジネスのシナリオでは、身元認証管理およびアカウントシステム、データ交換、ならびに（例えば、財務部門のための）普遍的な業界要件の要件など、多くの汎用ロジックモジュールが存在します。エンティティがこれらの基本モジュールとプロトコルをすべて単独で開発する場合、独立したシステムによって作られるビジネスインテリジェンスの障壁はもちろん、膨大な時間の無駄になります。

したがって、オントロジーコモンは分散型認証フレームワークや分散型データ交換プロトコルなど、幅広い産業アプリケーションをサポートする一連の共通モジュールとプロトコルを提供します。

3rd オントロジーコモンの利用

現実的な事業計画の中で、オントロジーコモンは提携企業からの多くの要求に応えることができます。分散型データ交換を例にすると、オントロジーコモンは4つの共有モジュールで設計されています。

- アイデンティティ管理モジュール
- データソース管理モジュール
- スマートコントラクト取引モジュール
- P2Pコミュニケーションモジュール

データ交換モジュールは、財務、著作権、法律など様々な産業に適応可能で、全種類のアプリケーションに、連結サポートが可能となります。オントロジーコモンを通じて、オントロジーの公共サービスチェーンやコアアプリケーション層のプロトコル、モジュール、そして規則を全て一緒にして、アプリケーション開発者が素早く、分散台帳技術があるために起こる複雑性に頭を悩ますことなく、すべての産業に対して分散型アプリケーションを開発することができます。

2nd オントロジーコモンの技術設計

- オントロジーコモンのプロトコル設計
オントロジーコモンのプロトコルは開発プロセスにあります。主な目標としてはオントロジーコモンが、より良い互換性と拡張性を持つために、異なるプロトコルや基準を用いて、それぞれのシナリオで実現可能性を最大化させることです。オントロジーコモンは共有データプロトコル、共有プロセス管理プロトコルなどのアプリケーションフレームワークに多様なプロトコルを提供します。これらのプロトコルが一緒となり、APIsやSDKsのほか様々なアプリケーションモジュールを通して、提携企業のアプリケーションをサポートします。
- オントロジーコモンのモジュール設計
オントロジーコモンは、基本的なフレームワークやアプリケーションに対して、いくつもの共通の基本的なモジュールを設計しています。それに基づいて、オントロジーコモンの提携企業は、すみやかに共用が可能なブロックチェーン機能を実装可能となり、これら共有モジュールを用いて、ブロックチェーンアプリケーションを構築できます。
- オントロジーコモンの規則設計
オントロジーコモンは、分散型身元認証、分散型データ交換、分散型信頼性のあるデータ送信など、一般的な事業規則を設計します。提携事業とオントロジーの間の技術的な協力を促進するため、同時に提携事業間において事業協力の誓約のため規定が設計されます。

オントロジーカスタム

1st オントロジーカスタムの設計

オントロジーカスタムは、さまざまな分野でのニーズや要件を満たすように設計されています。オントロジーカスタム内では、特定のアプリケーションの要求に基づいて、カスタマイズ可能なプロトコルやモジュールがあります。

● 技術の観点

オントロジーカスタムは、提携企業からの技術的要求やニーズに応じて、アクセスメカニズム、暗号化要件、コンセンサスメカニズム、およびストレージ・モードのカスタマイズされた設計を区別できます。

● アプリケーションの観点

オントロジーカスタムは、提携企業が関与する業界標準や要件に応じて、異なる方法で設計され実装されています。

● ガバナンスの観点

オントロジーカスタムは、あらゆる国、構造、産業を元に、対応するパターン設計を行うことができます。

3rd オントロジーカスタムの使用

オントロジーカスタムは、二つの基本的な状況に適用できます。まず、オントロジーカスタムは、様々なビジネスシナリオの特定のニーズに合わせて簡単にカスタマイズできます。次に、オントロジーカスタムはさまざまなビジネスブロックチェーンに対して、より柔軟にサポートを提供できます。

オントロジーカスタムのスマートコントラクトシステムを例とすると、スマートコントラクトのカスタマイズされた設計は、ビジネス拡大やイノベーションをよりよくサポートし、共同ビジネス、管理、交換における技術的な信頼を確立します。オントロジーカスタムを利用することにより、提携企業は特定の管理、コンプライアンス、ガバナンス、コンセンサスの要件を満たすアプリケーションを設計し、共通のプロトコル、モジュール、ルールについてオントロジーコモンズと協力することができます。オントロジーコモンおよびオントロジーカスタムはオントロジーのネットワークシステムを改善し、パフォーマンス拡張、ガバナンスモデル、および特定のビジネスシナリオに関して、より良い連結、境界設定、および柔軟なサポートを提供します。

2nd オントロジーカスタムの技術設計

オントロジーカスタムは、次に紹介する技術設計を通じ、様々な提携企業の幅広いニーズを満たすために、最善を尽くします。

● 連結された設計を緩める

オントロジーの公共サービスチェーン構造は、モジュール化され、接続可能で、異なる産業のニーズに対応し、すべてのアプリケーションに柔軟なサポートを提供する緩やかな結合設計を備えています。一方で、そのシステムとモジュールは、一定の技術やビジネス機能の開発とともに開発し、拡張することができます。

● 「単一モジュール、単一機能」設計

オントロジーの公共サービスチェーンは、暗号化セキュリティモジュール、ユーザー認証モジュールなどのさまざまなモジュールと連携し、さまざまなシナリオに柔軟に対応します。

● 水平スケーラビリティ

オントロジーによるチェーンネットワーク機能の開発やエコシステムの拡張は、一つのブロックチェーンによって実行されるわけではなく、公共サービスやアプリケーションチェーンとの連携により、連鎖ネットワーク全体のハイパフォーマンスを保証します。

エコシステム概要

—

エコシステム

オントロジーは信頼ソースの効率的な調整、データシステムの相互接続、そして全種類の分散型アプリケーションサービスのための完全な技術的基盤を提供する信頼ネットワークです。

オントロジーは、トラストエコシステムを構築するためのインフラストラクチャと接続メカニズムを構築します。これによって、様々な業界が幅広いシナリオのアプリケーションを開発し、プラットフォーム上の他のエンティティと協力することが可能になります。

エコシステムに関する以下の三つの部分は、オントロジーの開発を通じて大きく発展するでしょう。

1st 技術的エコシステム

オントロジーのコアチーム、開発コミュニティ、およびアプリケーションパートナーは、分散アプリケーションの開発において、相互依存のチーム組織を形成するために協力し、すべての当事者が安全で効果的な分散型システムを問題なく運用できるようにします。

2nd アプリケーションエコシステム

あらゆる提携企業は、オントロジーを使用してビジネスに分散型システムを提供できます。様々な分散型アプリケーションが、大規模なエコシステム内で接続されることで、すべてのエンティティ間で信頼できる協力が可能になるので、より優れたユーザーエクスペリエンスを提供します。

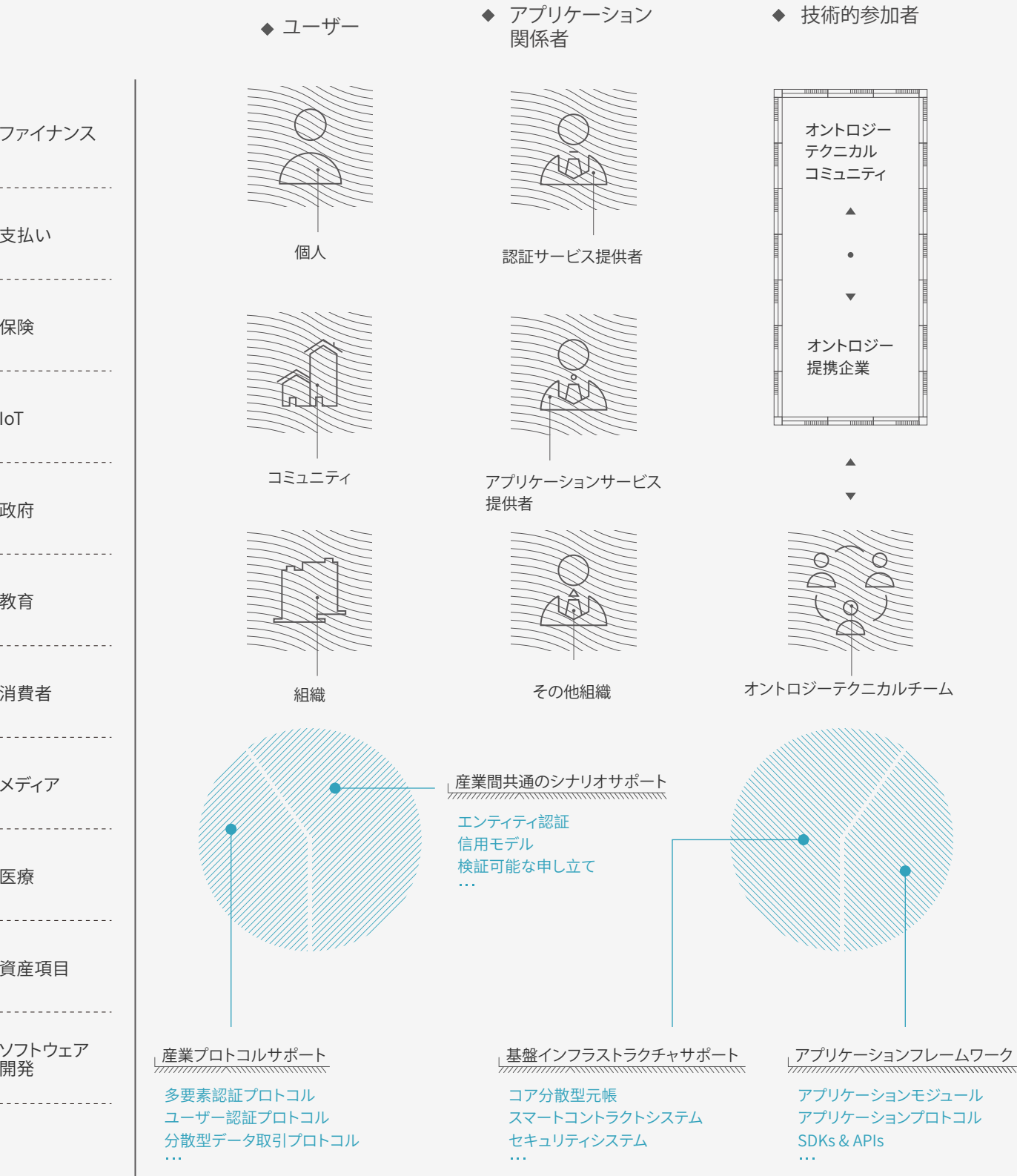
3rd ガバナンスエコシステム

オントロジーは、提携企業の強みを重視します。オントロジーファミリーは、エンティティ認証サービスプロバイダ、アプリケーションサービスプロバイダ、コミュニティ、そして個人などで構成されます。オントロジーファミリーとオントロジー評議会の両方が、オントロジーガバナンスエコシステムを形成し、エコシステム全体の技術的な開発、透明性のあるガバナンス、セキュリティ、そして調和のために尽力しています。

エコシステムの基本設計概念

エコシステムの構造は、モジュール方式で接続可能であり、異なるビジネスアプリケーションの柔軟な拡張とサポートを可能にする疎結合設計となっています。オントロジーは分散型元帳、スマートコントラクト、分散型認証プロトコル、分散型データ交換プロトコルなど、幅広いビジネスシナリオに対応する分散サービスのコア層とアプリケーションインターフェイスを開発します。

11



オントロジー連携エコシステム

オントロジーは、コア層(チェーングループ、モジュール、プロトコル層)、アプリケーション層(エコシステムアプリケーションパートナー、アプリケーションフレームワーク、モジュール)、そしてユーザー層(エコシステムアプリケーションユーザー)に分類されます。

オントロジーの発展には、提携企業がエコシステムを共に開発していくことが必要不可欠です。それと同時に、それぞれの層がともに、他のエコシステム提携企業と協力して構築します。

13

オントロジーユーザー

既にユーザーが使うことができるアプリケーションに加えて、オントロジーは他のシステムとエコシステムを繋げる複数のメカニズムを設計しています。

1st ユーザー認証

オントロジーは、第三者の認証メカニズムと指示方法を柔軟に構成し、統合して、ユーザーに対して複数のソースと信頼できるID認証を提供することができます。

2nd ユーザー認証

オントロジーの認証メカニズムは、トランザクションに関するデータ所有者（個人、組織を問わない）が、その取引を許可する必要があるように設計されています。

3rd データ連携メカニズム

オントロジーはデータ依頼者、データ提供者、データ所有者、そしてデータ共同作業に関する集中データベースをサポートし、それぞれの主体がデータの場所を照会し、それに従ってデータ要求を実行することができます。これによって、データアイランドを避け、データソースの拡散に役立ちます。

オントロジー技術パートナー

オントロジーのコア層の提携企業は協力して、基盤となるブロックチェーンフレームワークの開発、運用、保守、モジュールやその他の製品の設計と開発、アプリケーションのサポートなどを担当します。これに関しては以下チームがあります。

1st 開発チーム

開発チームは、オントロジーの基盤となるブロックチェーンアーキテクチャフレームワークの開発、運用、そしてメンテナンスを全面的に担当し、さらにモジュールを設計、および開発する技術パートナーとの調整を行います。

2nd テクノロジーコミュニティ

テクノロジーコミュニティは、エコシステムのために開発、テスト、設計、ユーザーエクスペリエンスの向上、フィードバック、エコシステムのアプリケーションプロモーションを提供するパブリックコミュニティです。

3rd アプリケーションパートナー

コア層とアプリケーションを後で接続するには、提携企業が重要となります。彼らは、それぞれの分散型アプリケーションの開発、統合、運用に携わっています。

オントロジーアプリケーションパートナー

オントロジーアプリケーションパートナーは、公共プラットフォームと適切に連携します。

1st 技術的なコミュニケーション

アプリケーションパートナーは、エコシステム内のブロックチェーン開発者とのコミュニケーションを通じて、アプリケーションを改善するためにブロックチェーンの機能とパフォーマンスをよりよく理解することができます。一方、アプリケーションパートナーは、今後のブロックチェーンモジュールの要件を満たすことができます。

2nd 技術協力

独自の技術力に加えて、アプリケーションパートナーは、ブロックチェーンアプリケーションの開発速度を上げるために、他のブロックチェーン開発者とモジュールとアプリケーションの共同開発を行うことができます。

3rd 技術共有

オントロジーはテクノロジー開発をサポートするために、ブロックチェーンの経験があるアプリケーションパートナーを歓迎します。アプリケーションパートナーは、独自のブロックチェーンアプリケーションを設計し、検証サービスを提供し、他のアプリケーションに参加することもできます。

4th エンティティ認証サービス提供

認定サービス提供者は、独自の範囲と信用度の中で、サービスを提供できます。

5th 企業間アプリケーションサービスの提供

異なる業界からのアプリケーションサービス提供者独自のサービスを開発し、スタートアップをサポートし、既存のビジネスを開発することができます。

6th コミュニティ

コミュニティの役割は、オントロジーのさらなる技術的研究、アプリケーションの実践、機能評価、人材募集などを支援することです。

7th 個人

オントロジーは、プラットフォーム上の他の人が保証する独自のオンラインIDを構築する際に、あらゆる個人をサポートします。さらに技術的、マーケティング、およびエコシステム開発への貢献を提供する個人も歓迎されます。

上記のメカニズムは、相互信頼を作り、すべてのユーザーに利益をもたらします。

1st コミュニティと個人

コミュニティと個人は、アプリケーションとユーザーを繋ぐ主要な参加者です。

2nd 組織

行政機関、企業、社会組織、そして NGO は個々のニーズに基づいて、分散型認証、データ連携、プロシージャコラボレーション、そして他の分散型サービスにアクセスすることができます。

3rd 人、資産、モノ

ONT ID によって、あらゆる種類の身元が認証され、保護されることができます。



テクノロジーエコシステム

—

テクノロジーエコシステムメンバー

オントロジーテクノロジーエコシステムは、相互に依存するチームを持つ単一のグループで構成されています。

コアチーム

オントロジーのコア開発チームは、ブロックチェーン実装における強力な能力を持っている、幅広い技術的なバックグラウンドからのメンバーがいます。オントロジーチームは中国最高のブロックチェーン開発専門家、さまざまなビジネスの基礎技術（大手金融機関の技術アーキテクチャーを含む）、グローバル投資銀行の金融専門家で構成されています。

オントロジーチームは公共プラットフォームにおいて、安全で、安定した運用を支える継続的な技術革新を通じて、あらゆる状態で使用でき、安定しており、調和した分散元帳テクノロジーフレームワークを築いてきました。

オントロジーチームは、認証チェーンとデジタル資産に基づくブロックチェーンプロジェクトを含む、中国そしてグローバル両方の複数のベンチマークブロックチェーンプロジェクトの実装に関わってきました。

オントロジーチームは、技術基盤のプルーフ・オブ・コンセプト（PoC）と機能実装をいくつも実現してきました。

提携企業

オントロジーは、技術連携にオープンな姿勢を持ち続けており、テクニカルコミュニティや提携企業からの貢献を歓迎しています。

テクニカルコミュニティは開発、テスト、製品設計、そしてユーザーエクスペリエンスを支援するために、国際組織や優秀な人材を求めています。

オントロジーは、強力な技術パートナーが統合された技術サポートサービスを開発、統合、運用、および維持できることを期待しています。同時に、これらの企業は、オントロジーの基盤となるブロックチェーンアーキテクチャを使用してブロックチェーン技術をさまざまな業界にもたらし、個々の技術的能力と開発経験に基づいて技術知識を交換することができます。

17

テクノロジーエコシステム開発原則

オントロジーの技術的なエコシステム開発は、オープン性、協力、そしてイノベーションが原則に従っています。この原則が、さまざまな分野からのシナリオを統合し、異なるコミュニティの強みを結集します。このエコシステムの目的は以下の通りです。

1st オープン性

任意の組織や個人が、技術、アプリケーション教育、アドバイスの提供など、自らが望む方法で、エコシステムの構築に参加できます。オントロジーは、資産割り当てや収益に対するリターンなど、コミュニティへの報酬に関するルールを設定しません。

2nd 協力

オントロジーは、コミュニティと提携企業間の水平および垂直方向での相互作用をサポートし、ビジネスとプロジェクトの拡大のための包括的なサポートを提供します。

3rd イノベーション

オントロジーは、テクノロジーエコシステムパートナーがチェーンネットワークの技術アップグレード、プロトコルとモジュールの完成と更新、およびアプリケーションの革新と開発に参加することを奨励します。同時に、貢献者とそのチームに合理的なインセンティブが提供されます。詳細については、ガバナンスホワイトペーパーを参照ください。

テクノロジーエコシステム開発方針

オントロジーは、パートナーやコミュニティの人たちと協力して、コアレジャー、スマートコントラクトシステム、セキュリティシステムなど、分散型元帳システムの設計を継続的に改善しています。同時に、オントロジーは基盤となる技術システムと異なるシステムを結合し、すべての主要なプロトコルと暗号システムに互換性のある分散型エンティティマネジメントと多次元認証プロトコルを実装します。

オントロジーはまた、個々のブロックチェーンと従来のITシステム間のさまざまなクロスチェーンおよびクロスシステムの対話型マッピングをサポートしています。さらにセキュアデータストレージ、スマートコントラクト、ハードウェアキーマネジメント、暗号化されたデータ分析などのような技術的システムも提供します。システム全体はdAppsを含むさまざまなアプリケーションサービスをサポートできます。

協力メカニズム

オントロジーテクノロジーエコシステム内の提携企業は、以下を含むさまざまな形の知識交換や協力に参加します。

1st 技術交流

オントロジーはテクニカルコミュニティと提携企業間で、R&D(研究開発) の方向や技術標準の更新について議論するために、様々な形の技術交流を組織する予定です。ブロックチェーン技術の開発によって、コアレジャー、スマートコントラクトシステム、セキュリティシステム、プロトコル、そしてモジュール設計は、すべて異なるビジネス領域および地域の要件を満たす必要があります。アプリケーションの拡張によって、基盤となるブロックチェーンアプリケーションフレームワークの継続的な開発と更新が求められます。オントロジーのテクノロジーエコシステムは、アプリケーション開発者のニーズを満たすために開発や更新が必要なアプリケーションモジュール、プロトコル、SDK、そして API について説明します。

2nd 技術協力

オントロジーは、プロトコルとモジュールの設計、開発、テストに貢献するために、すべての技術的背景のパートナーを歓迎します。エコシステムのテクニカルパートナーは、コードの提供、コードの監査、テストの実行などにより、オントロジーの開発計画に加わることができます。オントロジーは、オントロジーアプリケーションパートナーの個々のニーズに応じて、開発インセンティブを設計します。

3rd 技術共有

オントロジーは、テクニカルおよびエコシステムパートナーが、クロスチェーンプロトコル、暗号化、分散型ストレージなどの基盤技術およびアプリケーションフレームワークに貢献できることを提供することを歓迎します。オントロジーはまた、テクニカルエコシステムパートナーがテクニカルフレームワークの技術リソースを提供し、その構造安定性とユーザビリティを向上させます。

その他の特徴

1st 基盤となるインフラサポート

オントロジーのチェーンネットワーク構造は、異なるシナリオを満たす一つ以上のブロックチェーンの構成可能な実装を可能にします。それゆえ、優れた互換性とスケーラビリティを実現するために、さまざまなプロトコルや標準とオントロジーとその基盤となるインフラストラクチャとの互換性が必要です。オントロジーの技術は、これらの原則を念頭に置いて、エコシステムの協力と研究を続けます。

● オープンソーステクノロジー

ブロックチェーンは「信用を作る」仕組みなので、これ自身は透明性があって、オープンソースでなければなりません。オントロジーの基盤となるブロックチェーンインフラストラクチャは、国際標準に基づいて徐々にオープンソース化されます。オントロジーチームとテクノロジーパートナーはテクノロジーエコシステムの継続的な発展に向けて、平等に意見を言う権利を持っています。当然、オープンソースとオープンソースのコードは異なる概念です。オープンソースソフトウェアには著作権があり、オントロジーはその技術パートナーのプライバシーと知的財産を保護します。これによってパートナーは個々のオープンソース、または特許保護戦略を決定できるようになります。

● モジュール設計

オントロジーのエコシステムは異なるビジネス領域、国、地域のニーズを満たすためにモジュール化され、接続可能で、柔軟性のある疎結合設計に従います。したがって、特定のアプリケーション要件に応じて、迅速に変更することができます。ビジネスチェーンはシナリオ、業界、規制、ガバナンスの要件に応じて、カスタマイズすることができます。

● パートナーによる独創性のあるオリジナルアイデア

オントロジーはそのテクノロジーの独創性を推奨し、エコシステムパートナーと協力して、技術開発の独立性と標準化を保証します。同時に、ブロックチェーンテクノロジーはまだ開発途上で、他のテクノロジーとの統合が必要です。これを考慮すると、オントロジーは分散型IDファンデーション (DIF)、中華人民共和国工業情報化部のブロックチェーンオープンソースプロジェクトなどに積極的に参加し、さらに技術交流など技術協力のさらなる拡大を図ります。

2nd アプリケーションフレームワークの提供

アプリケーション開発者は分散型システムの開発の知識がないとしても、オントロジーはその開発者に対して、オントロジー上で分散型サービスを直接提供するためにインフラを与えます。現在、オントロジーチームはデータ取引マーケットプレイス、データトランザクションモジュール、暗号化、そしてセキュリティモジュール、ユーザー認証モジュール、認証クレームモジュール、そして分散型データベース (GlobalDB) を開発しています。詳細に関しては、オントロジーのテクノロジーホワイトペーパーを参照してください。

一方で、オントロジーのテクノロジーエコシステムは、アプリケーションパートナーの要件に従って、API、SDK、およびさまざまなアプリケーション機能を提供して、独自のdAppやdAppをサービスとして迅速に実装し、ブロックチェーンをすべての人がアクセスできるようにしていきます。

5
ガバナンスエコシステム

ー

オントロジーは、トラストエコシステムの基盤となるインフラストラクチャとして構築され、分散型テクノロジーとデータシステムの開発と維持をネットワーク間のコネクタとして機能させ、提携企業が事業運営にのみ集中できるようにします。

ガバナンスエコシステムメンバー

オントロジーファミリーは、オントロジーのすべてのエンティティによって構成されています。以下、ファミリーメンバーの定義と役割は次の通りです。

1st エンティティ検証サービスプロバイダー

これには著名なエンティティ検証サービスプロバイダーであるCAやeIDが含まれています。すべての組織、企業、コミュニティ、そして個人が独自の分野や信用レベルの範囲内でエンティティ検証サービスを提供する、検証サービスプロバイダーとなることができます。

2nd 産業アプリケーションサービスプロバイダー

産業アプリケーションチームは、オントロジーエコシステムの形成において主要な役割を果たし、オントロジーファミリーの主要なけん引役となります。

3rd コミュニティ

オントロジーは技術的な実践と開発を促進するために世界中の組織やコミュニティの技術的に優秀な人材を呼び込むことを目指しています。さらに、オントロジーは、コミュニケーションとトレーニングを通じて、創造性を促し、コミュニティ内でアプリケーション開発を行う構想があります。オントロジーチームは、アプリケーション開発を検討している個人やグループに対して、テクニカルサポートを提供することも可能です。

and 個人

オントロジーのトラストシステムに参加するには、他のユーザーを認証して承認し、独自のアイデンティティプロフィールを作成します。また、オントロジーのエコシステム開発のための技術サポートと最適化のフィードバックを提供することもできます。個人からのテクニカルバグの報告のようなフィードバックは、オントロジーにとって重要です。

コンプライアンス

トラストシステムはユニークでありながら、多目的です。さまざまな地域、業種、法制度の下では、データソース、証明書、エンティティデータの使用、セキュリティ原則など、アイデンティティと信頼の要件が異なります。それゆえに、オントロジーが解決に取り組む主要な問題には、さまざまな法制度、地域、ビジネスシナリオ、そしてデータセキュリティの考慮事項におけるコンプライアンスが含まれています。

さらに、オントロジーはトラストソースとデータソースが様々なブロックチェーンの原則に準拠できるようにします。このようにして、オントロジーは地域およびシナリオ間でのデータ交換中にプロトコルコンプライアンスを保証し、信頼できるデータソース、およびデータ交換のための監視および監査メカニズムをサポートすることができます。監督者はさまざまなトラストソースとデータソースに応じて、さまざまなコンプライアンスとセキュリティ監督を実行できます。

意思決定の仕組み

1st オントロジー評議会

オントロジー評議会は、オントロジーのガバナンスの透明性と開発に集中し、オープンソースエコシステムのセキュリティと調和を確保します。理想的なガバナンス構造によって、評議会は技術、財務、広報などを含むオープンソースコミュニティの日々業務を管理します。

オントロジー評議会のガバナンス構造設計は、持続可能性、効率的な管理、そして資金調達のセキュリティを確実にします。オントロジー評議会は、執行委員会、技術管理委員会、アプリケーション管理委員会、財務・人事委員会を批准する開発委員会と運営委員会で構成されています。

オントロジー評議会の詳細は、ガバナンスホワイトペーパーを参照してください。

2nd オントロジー評議会の執行メカニズム

リスク管理システムを設定し、最適化するために、オントロジー評議会はオントロジープロジェクトのクオリティと進捗を含む、オントロジーの持続可能性に対して、毎年セキュリティアセスメントを要求します。このアセスメントでは、スマートコントラクトアプリケーション、マネジメント、リスクの特定と分析などがチェックされます。オントロジー評議会はプラットフォームでのイベントの影響、範囲、そして程度などを分析した後に意思決定をします。優先度が高いイベントに関しては、オントロジー評議会は素早く戦略に取り組むために、特別委員会を組織します。

オントロジー評議会は管理、コーディング、アプリケーションイベントに分類します。

- マネジメントの成果に関しては、オントロジー評議会のメンバーは意思決定を行う財務・人事委員会とオントロジー評議会会長が決定を確定するミーティングを行います。
- 資金調達に関するオープンソース、および経費の問題のコーディングの問題については、通常は投票によって行われます。
- アプリケーションイベントは、アプリケーション管理委員会によって管理され、問題を解決し、状況に即した要件に基づいて分析を行います。技術管理委員会は、必要に応じてテクニカルサポートを提供することができます。
- ソフトウェアのセキュリティやシステム更新などのようなコミュニティ全体に影響を与える緊急事態は、執行委員会の投票によって直接管理されます。

ガバナンス エコシステム開発方針

ブロックチェーン技術は引き続き、機会と課題の両方をもたらすでしょう。オントロジーは、これに備えるためにコーディングとアプリケーション開発に対して、ガバナンスイニシアティブを開発しています。

1st 基盤フレームワークガバナンス

コーディングのエラーに対して、オントロジーは通常システム更新を行います。コーディングのエラーは技術委員会によって分析、テスト、確認され、オントロジー評議会に報告される必要があります。システムのアップデートは、以下のような重大なエラーが起こった時に必要です。

- ユーザーの資金に関するエラー
- 主要なセキュリティ問題
- システムセキュリティに影響があるエラー

2nd 商用アプリケーションガバナンス

オントロジーはブロックチェーンを現実世界と結びつけることを目指すオープンソースのプロジェクトです。そのため、オントロジー評議会は商用アプリケーションに、3つのコラボレーション方法を採用する予定です。商用アプリケーションは、第三者による供給者によって導かれ、オントロジーは技術面でのサポートを行います。



アプリケーションエコシステム

—

オントロジーのインフラストラクチャは、分散型システムを組み込み、エコシステムに接続することで、あらゆる状態と規模の提携企業が新しいビジネスモデルを実現できるようにします。これによって、改善されたサービス、協力、信頼、そして効率的な機会を提供します。

アプリケーション エコシステムメンバー

オントロジーは現実世界のビジネスロジックに寄り添い、多様な業界、アプリケーション、および端末に信頼構築の仕組みを提供する包括的な公共ブロックチェーンです。オントロジー評議会は、オントロジーの開発者コミュニティ、技術提携企業、業界提携企業のリソースを第三者の開発者と連携させ、さまざまな信頼ベースのアプリケーションシナリオとサービスの実装をサポートします。

アプリケーション エコシステム 開発方針

オントロジーは、分散型エンティティ認証、データ交換、手順、コミュニティ、評価システムなどを含む、エコシステム内の認証とデータの継続的な開発をサポートします。提携企業が独自の分散型トラストサービスを運営する基盤となるブロックチェーン基礎構造と組み合わせることで、オントロジーは真の国際的なプラットフォームを推進します。同時に、オントロジーはアプリケーションパートナー、サービス提供者、起業家を問わず、どんな人の参加でも歓迎します。

アプリケーションエコシステム開発原則

トラストエコシステムのインフラとコネクターとして、オントロジーはさまざまな業界やシナリオのアプリケーションを取りまとめることができます。アプリケーション開発においては、以下の原則が掲げられます。

1st 柔軟性

システムの基礎構造は、さまざまな事業アプリケーションをサポートし、柔軟な拡張性を可能にする疎結合設計によって、組み立て、そして接続が可能になっています。

2nd 実行可能性

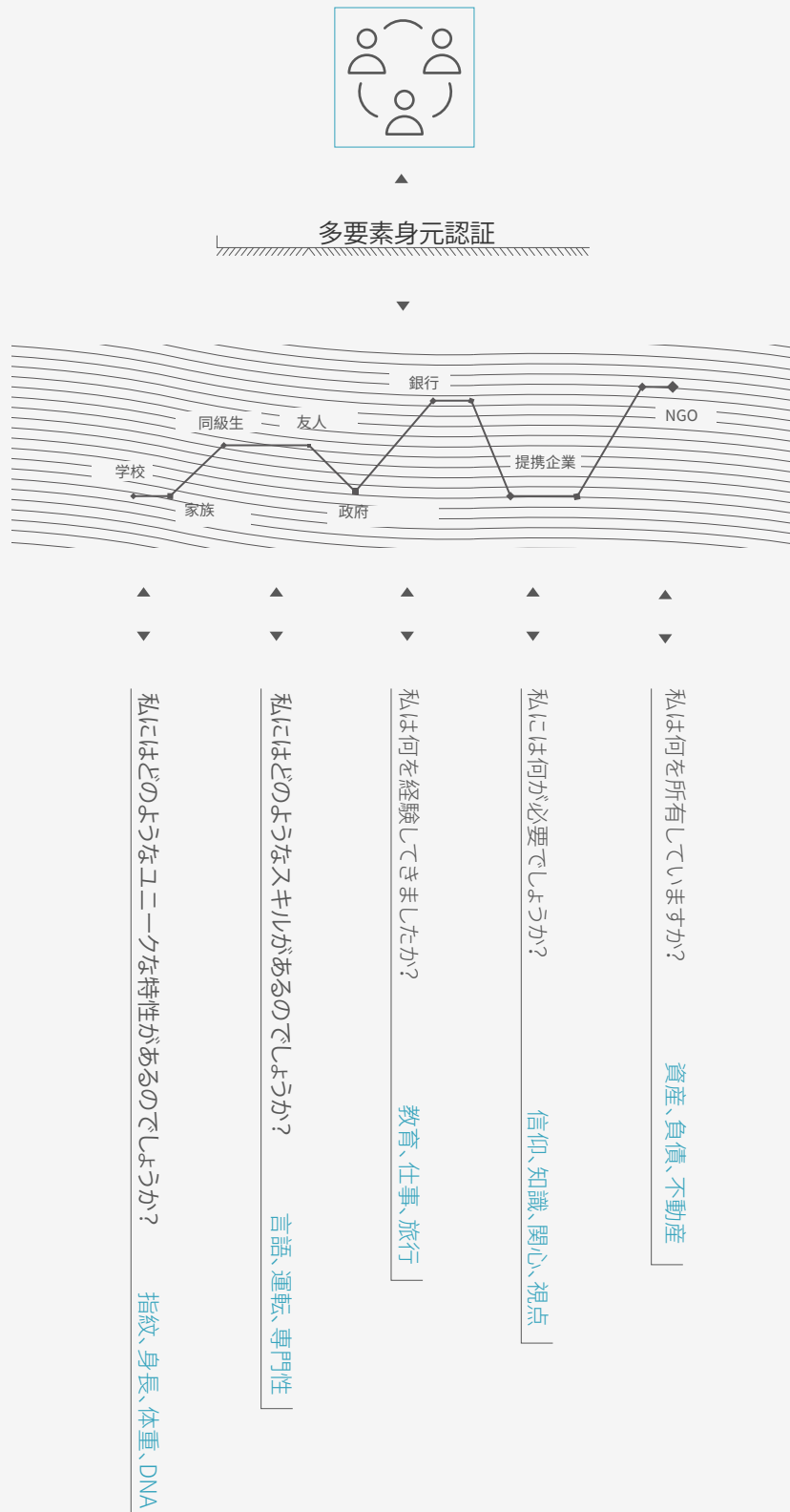
オントロジー構築システムは、多様な種類のブロックチェーンアプリケーションの生成をサポートします。

3rd イノベーション

オントロジーは継続的にブロックチェーンと分散元帳技術を実装し、アプリケーションにとって、適切なインフラとして様々なビジネス領域のイノベーションに取り組めます。

オントロジーは、あらゆる人が新しいプロジェクトを始め、公共プラットフォーム上で既存のものを拡張することを歓迎します。オントロジーチームは、透明性があり、安全で、効率的な分散型トラストエコシステムによって、これらのアイデアを実現するためのインフラを構築するために取り組んでいます。

人々に対しての多要素認証システム



28

アプリケーションの導入

オントロジーは以下の機能によって、さまざまな識別と認証に対応しています。

1st 多要素認証

複数の当事者が、同じエンティティの異なる側面を認証して、より包括的な身元認証を実現します。

2nd 包括的な個人プロフィール

個人は、自分に関係する複数の情報源からのデータによって、身元を構築することができます。

3rd データ追跡

全ての認証は署名によって実行され、この署名は偽造することができません。認証が行われるたびに、その記録はブロックチェーンに登録され、ネットワーク内ではどこでも追跡できます。

オントロジー上で開発されたdAppsは、以下の設計で使用できます。

1st 多要素オブジェクト評価

プライバシーとインセンティブの設計には、候補者の元従業員が評価に関わることを奨励することと、何らかの理由で個人に精通した「見知らぬ人」からより多くの寄付を使用すること（つまり、以前の協調的なパートナー）が、個人についてのより包括的な評価を提供し、従来の要件プロセスには存在しないものを提供することができます。

2nd 成果の包括的な評価

プロジェクトは候補者の成果に関して、オントロジーのデータ収集と連携メカニズムによって、包括的で柔軟な評価システムを形成することができます。例えば担当業務、役職、期間などの特定のアセスメントモデルと基準を設計することができます。

3rd 簡単な長所と短所の発見

上司、部下、同僚、人事部の視点に基づいて、候補者の強みと弱点を知ることによって、候補者をよりよく評価し、適切な給与を設定することができます。

4th 適切な給与位置付け

オントロジーを使用する企業は、以前の給与データを使用して適切な給与を査定したり、システムを使用して優秀な人材を獲得するために優位性のある給与を提供することができます。

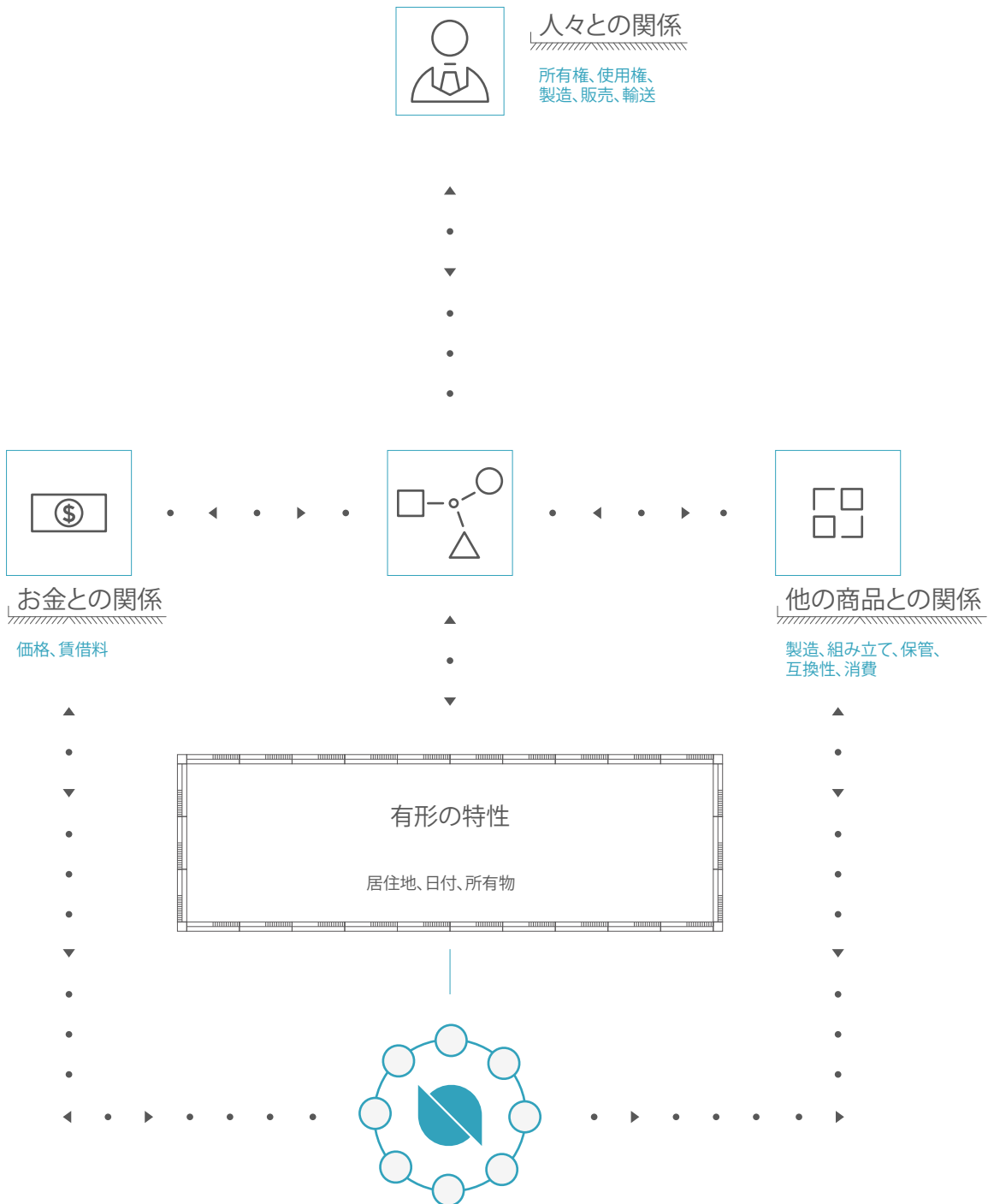
ケーススタディ

求人の事例

候補者の履歴書は採用プロセスでの中核です。しかし調査によると、人事が受け取った履歴書のうち、60%が誤解を招く結果になります。このうち、48%が就労経験について誤解を招き、13%が教育について、7%が他の資格について誤解を受けています。仕事経験について誤解を与えている人のうち、13.7%が完全に誤解を招き、67.5%が職場で過ごす時間を誤解させることとなり、53%が職場について誤解させ、21.6%が退社理由を誤解させ、8.9%が会社自身の誤解を招きます。上級職の31%、中間職の44%、一般職の25%が誤解を招いていました。

従業員の中には、以前と同様の立場にあった者の経歴の確認を行う企業もありますが、その過程で問題に遭遇することがよくあります。これは確認を行う際に現実的で、効果的な情報を得ることが難しいという事実に反映されています。従業員の経歴の確認は、プライバシーの権利を侵害し、論争を引き起こす可能性があります。効果的で透明な調査手段がなければ、経歴確認のコストはさらに高くなります。

モノに対しての多要素認証システム



アプリケーションの導入

人のように、ものの身元を認証するあらゆる要素があります。オントロジーの目標は「すべてのものを特定する」ことであり、以下の設計で実現することができます。

1st モノの認証サイクル

オントロジー上にデジタル情報表示を登録し、デジタル署名と承認認証でモノを検証し、そしてその使用とあらゆる関連データを追跡することで、ライフサイクル全体を通じて多要素認証で追跡できます。

2nd モノのデータ記録と認証

オントロジーは、所有権、流通、ユーザーの動向、そして他の関連情報を含むモノのデータを完全に記録して、認証することができます。

ケーススタディ

IoTの事例

シスコの調査によると、2020年には平均1人当たりで最低でも6.58個のIoTデバイスが使われるようになります。将来のスマートデバイスは、IoTを通じて日常の雑用を処理することができます。しかしこの段階では、IoTデバイスはいくつかの大きな問題に直面します。まず集中化されたアーキテクチャによるセキュリティリスクとプライバシーの問題により、犯罪者が家庭用デバイスなどの弱いリンクを攻撃してネットワークに侵入する可能性があります。次に、IoTデータの高い運用コスト、記録、およびストレージが中央サーバに集約され、ストレージおよび全体的な運用コストが高くなります。

オントロジー上で開発されたdAppsは、以下の設計を使用することができます。

1st IoTセキュリティ設計

デバイス間の信用メカニズムは、デバイスがコンセンサスによって維持され、中央の機関によって検証される必要がないときに確立されます。一つ、もしくは複数のノードが害を受けた場合でも、ネットワーク全体のデータは信用でき、安全です。

2nd IoTデバイス認証管理

認証とID特定のために、それぞれの接続されているIoTデバイスのデジタルIDを作成することができます。これによって、スマートコントラクトを使用して、動作を制御しながら、スマートデバイスの監視と管理を簡単に行うことができます。

3rd 分散型IoTデータ処理

オントロジーは、ピアツーピアでのデータ転送と保管基礎構造として設計されています。標準的なP2Pコミュニケーションモデルを使って、デバイス間の大量のトランザクションを処理することで、大規模なデータセンターを維持、展開するコストは、分散型コンピューティングとストレージの要求を満たすことができます。

分散型データ連携と交換

アプリケーションの導入

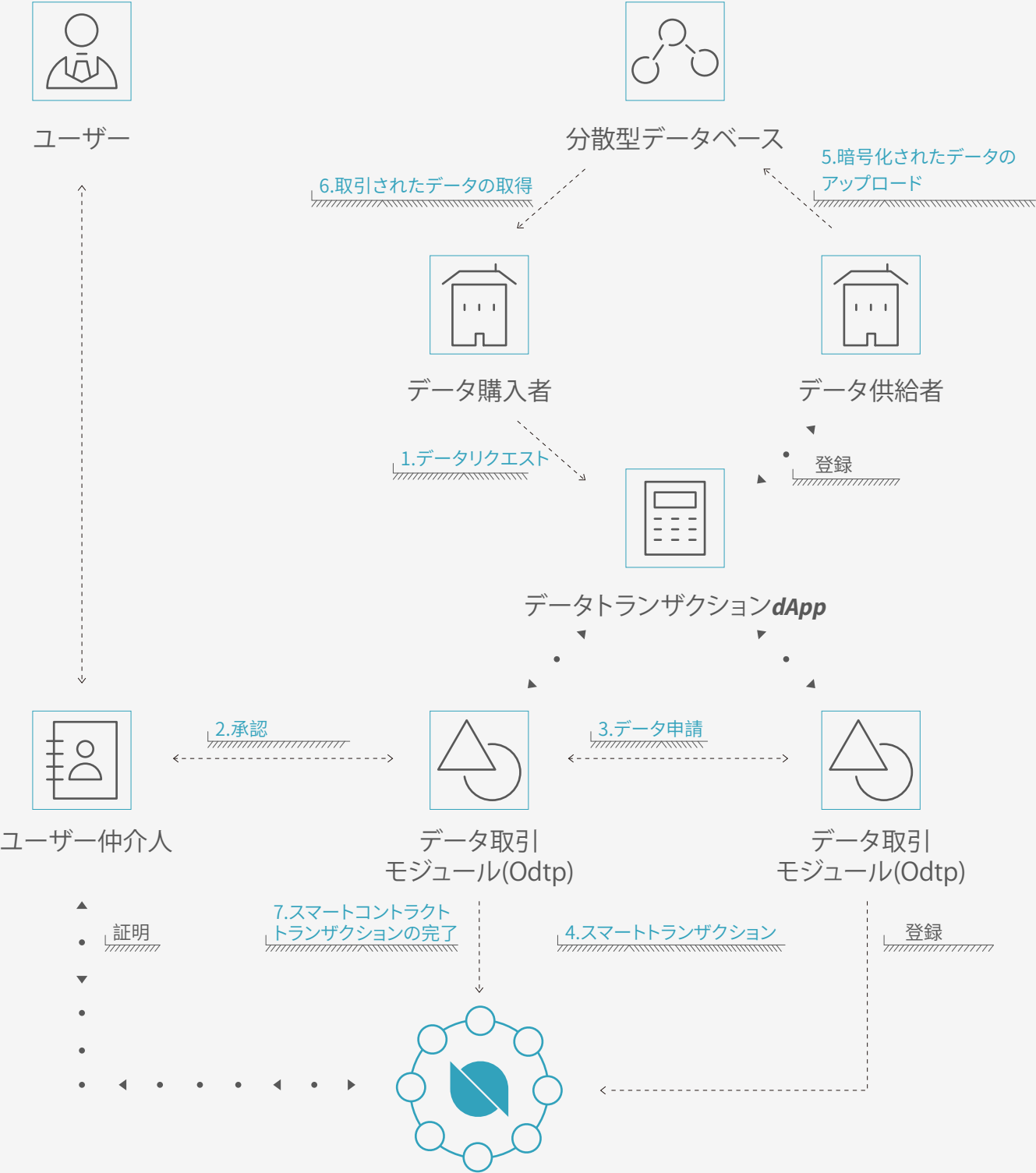
オントロジーはデータの検出、使用の許可、およびトランザクションをサポートするように設計されたさまざまな標準化されたプロトコルを使用して、エンティティデータの交換フレームワークを提供します。きめ細かなコントロールメカニズムによって、ユーザーはデータの利点の恩恵を受けながら、データの連携を実施できる一方で、プライバシーのニーズも満たされます。

1st データの検出

単一のエンティティ上のデータを、複数のソースから手動で収集する必要がなくなります。オントロジーでは包括的なデータのポートフォリオがコンパイルされており、ユーザーIDでアクセスすることができるので、簡単にデータを収集し、使用することができます。

2nd データ交換

データの購入者は、ユーザーIDを介してユーザーデータのアクセスアドレスを検索し、データを取得するためのリクエストを送信します。このリクエストはまずはデータ所有者のクライアントに送信され、それからユーザーによって確認(もしくは、拒否)され、その後承認(もしくは、辞退)されます。データ所有者は、データが交換される前に、必ずデータリクエストを承認しないといけません。オントロジーはデータ所有者に、自身のデータへのアクセスと認証を提供するように設計されています。



ケーススタディ

データ連携と交換の事例

現在、データ取引を改善する方法が多くあります。

a. データソース

- 即時性: 多くのデータソースは時間的・効率的ではなく、更新頻度も少ない状態です。
- データソースの不規則性: 受信可能範囲、再実行時間、トランザクション件数など、基本的なデータの質を図るパラメーターを含めて、データソースの質はあまりにも多様です。
- データアイランド: 信用、法律や他の要素によって、外部との接続性を欠くことで、データアイランドが形成されます。

b. データ使用プロセス

- ユーザーのプライバシーとコンプライアンス: 中国のサイバーセキュリティ法が2017年に施行された後、ユーザーのプライバシーは違法な使用、提供、販売の観点から厳しく定められています。現状では、多くの相互データソースは法律に従わないために、コンプライアンスの問題を抱えています。
- データの独占性: 一元化されたデータ交換では、プロキシプラットフォームに大量のデータがキャッシュされることが多く、ユーザーやデータソースの権利と利益に対する脅威や侵害でもあります。

c. データ管理

データは販売されたデータであり、管理、追跡、保護することはできず、データ関連の著作権の利益は反映されません。

オントロジーは、データ交換プラットフォームの現在ある短所に対処するために、分散型データ交換のための一連の基本的な機能とプロトコルのサポートを提供します。

1st 分散型データ取引プロトコル

オントロジーは、さまざまなビジネスシナリオをサポートするために幅広いグローバルデータ交換プロトコルとの互換性を持ちます。さらに、データ交換プロトコルを分散型元帳と組み合わせて分散型データ交換フローを形成し、暗号モジュールサポートのためのデータおよびプライバシー保護の範囲を提供します。

2nd 統合データフォーマット管理

オントロジーは、対応するデータフォーマット仕様を処理し、異なるプラットフォームおよびデータソースを区別できるデータ管理システムを設計しました。まず、データの記録は暗号化され、オリジナルのデータをブロックチェーン上に記録します。そして、統一されたデータ用の鍵により、データにアクセスする方法を統一することができます。次に、データディレクトリのブロックチェーン認証設計により、必要なデータを迅速に適合させることができます。

3rd データ認証メカニズム

データのプライバシー保護と漏洩防止は常に保証されていて、ユーザーは自身のデータを完全に制御することができます。各データ転送では、全ての関連当事者の承認が必要です。

4th データ収集における効率的な連携

オントロジーでのデータソース連携は、効率的な管理を促進することができます。まず、各データソースは既存のデータ集積の方法を修正する必要がありません。つまり、データソースは既存の集中型のデータ集積のやり方を活用し続けることができます。次に、データ連携メカニズムはデータ依頼者側からデータの場所を照会することができます。このようなデータ要求は、データアイランドの存在を回避し、包括的なデータ分析を促進するデータ取得チャネル、及びシナリオを拡大することができます。

5th データの著作権保護

オントロジーは、データの格納、管理、そして認証の一連を行います。デジタル認証では、登録、要求、認可、交換でデータの複製ごとに、デジタルIDが作成されます。著作権保護も同様に、複製ごとにブロックチェーン上に記録されます。

6th 分散型データストレージ

分散型データストレージ層は、さまざまな種類のデータのために分散型ストレージをサポートしています。オントロジーでリクエストされる各データ要求は対応するデータソースから現在の状態のデータを受信します。これによって、集中型システムで古いデータを受信する問題とそれを更新するためのコストを回避します。

分散型連携共同

アプリケーションの導入

オントロジーは関係する当事者間での信用を生み出しながら、多様な分散型連携協力をサポートします。

1st 認証記録

参加者の変更可能な権限はそれぞれ記録され、全関係者によって承認されます。

3rd 評価

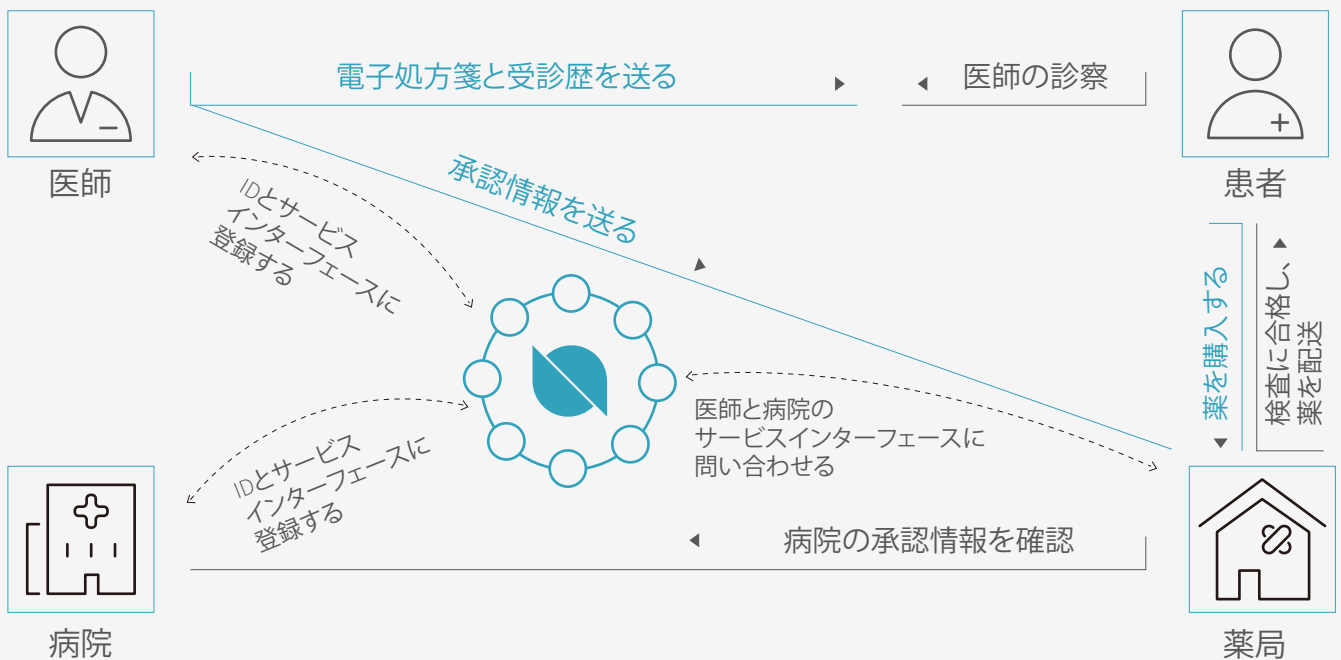
複数当事者間の確認および承認メカニズムによって、すべての共同点ティティによる評価が可能となり、評価結果の信頼性が保証されます。

2nd 活動記録

全ての活動が参加者の身元、活動、そして結果の透明性を確保するために記録されます。

and 関心の明確化

オントロジーの多様な機能とスマートコントラクトのようなモジュールによって、全当事者の関心を明確化し、それを適切に分散化することができます。



ケーススタディ

処方箋の購入事例

現在の問題は、以下に記載しています。

a. 複雑な購入手続き

伝統的な医療業界では、処方箋を貰うために病院で医師に診てもらう必要があります。このプロセスは患者、特に高齢者や身体障害者にとって不便です。

b. 医薬品購入におけるIDの問題

異なる病院のフォーマットや紙の処方箋などにより、法的、規制上のステータスを把握することはとても困難です。さらに、処方箋とその申請者を確認することも困難であり、薬局の販売リスクが発生します

c. 処方箋の管理問題

オンライン病院のような、新しい種類の医療法人が登場してきています。インターネットン病院のデジタル処方箋の信頼性はインターネットビジネスの信頼性とそのマネジメントに依存しています。デジタル処方箋をどのように正しいと確かめるかのような問題は、まだ解決されていません。

病院、患者、医師がそれぞれのアイデンティティをブロックチェーン上に登録した時、薬に関して鍵となる情報が記録されているので、ブロックチェーンが薬局と患者の間の信用のギャップを埋めます。これによって、薬局は医師と病院の資格情報を確認し、その後に処方箋の薬を患者に販売します。オントロジーでは、信用は分散型連携手順によって、構築することができます。

1st 人々に対しての多要素信頼性検証

オントロジーは、個人向けの多要素認証をサポートします。これは複数の当事者が、より包括的で多様な身元確認を実現するために、個人を様々な視点から検証することを意味します。医師と薬の購入者の資格認証によって、薬販売のリスクを低減させることができます。

2nd 医薬品販売に関わる当事者の責任明確化

オントロジーによって、医薬品販売時における当事者間の責任と制限は記録され、全ての関係当事者によって承認されます。シームレスなプロセスを確実にするために、新しい責任はすぐに、協力の際に全当事者によって確認されます。

3rd 医薬品購入記録

全ての参加者、彼らの動向、そしてその結果の透明性を確保するために、それぞれの医薬品販売の手続は、オントロジー上に記録されます。

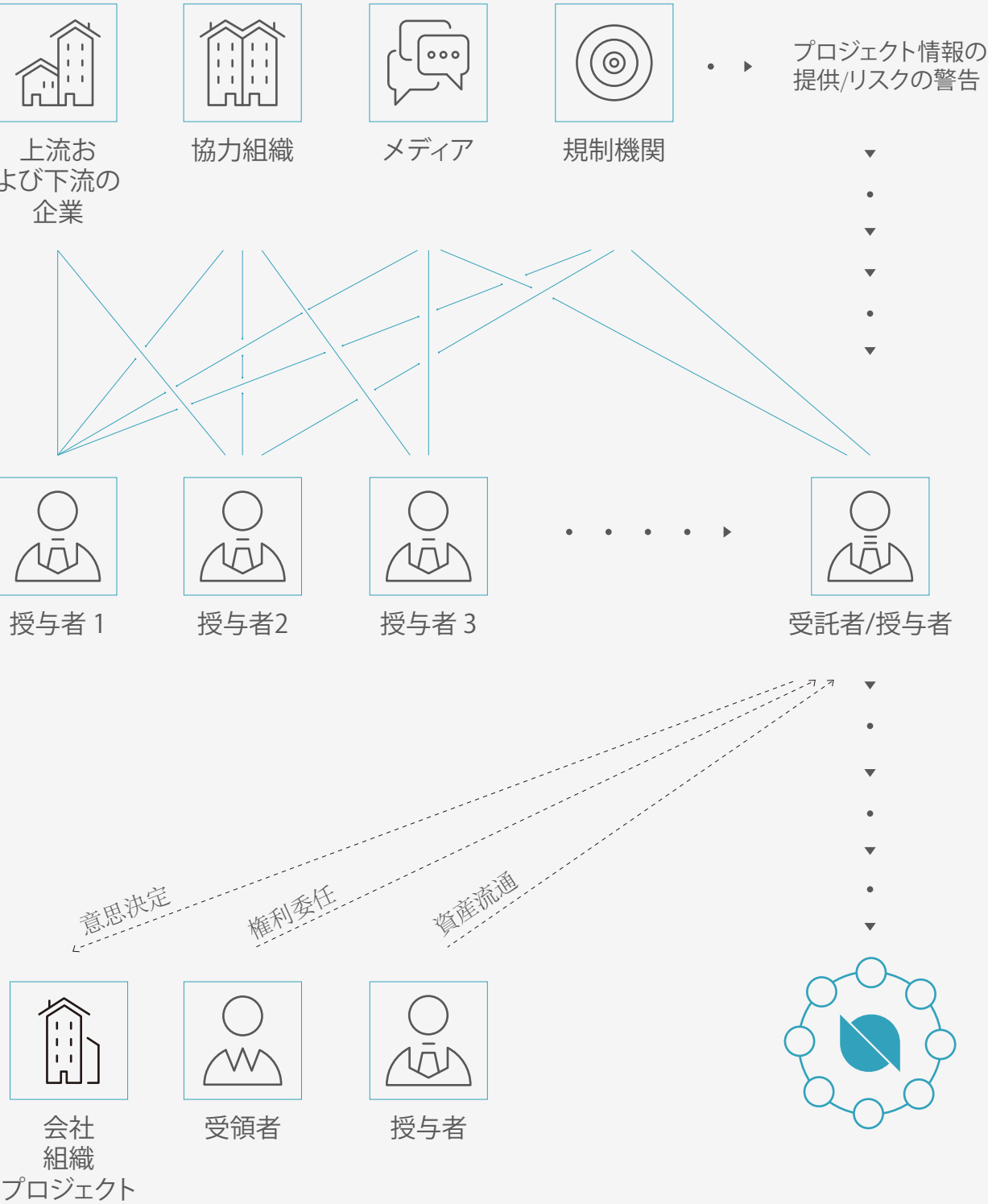
4th 医薬品購入結果の信頼性

オントロジーによって、コラボレーションの結果は全ての関係当事者によって、承認されることができます。コラボレーションプロセス全体の透明性をさらに保証するために、病院は発行した処方箋と医薬品を販売することそのものを承認します。

5th 評価システムの形成

すべての関連当事者、医薬品の管理とその販売を制限するために、オントロジーを使って評価管理システムを展開できます。人々の医薬品販売行為によって、「ローカル」と「包括的な」信用レベルを計算することができます。ローカル信用計算には、オントロジーはローカルの医薬品販売情報からパラメーターを集めて、ローカルの意見を形成します。包括的な信用計算には、医薬品購入者、ユーザー、監督者、そして他の当事者が含まれていて、オントロジーは薬局、もしくは病院に関しての包括的な評価を形成します。

分散型資産マネジメント



アプリケーションの導入

現代の経済システムにはさまざまな資産管理モデルが含まれていますが、低い透明性と情報の非対称性によって、これらのプロジェクトは信頼できる信用メカニズムが欠けています。これを考慮すると、オントロジーは信用に値する分散型資産管理システムを構築してきました。

1st 分散型投資管理

オントロジーはデータの安全な流通、複数の当事者による評価、およびプロジェクト評価のためのシステムを支援することができます。

2nd 分散型持分構成

持分構成は全当事者に透明性があり、ブロックチェーン上に記録されます。

3rd 分散型権利委託

オントロジーでは、関連する資料を提供することによって、行動に異議を申し出る機能を含む、複数当事者のための権利委託と記録を可能にします。

ケーススタディ

新しい資産管理モデルは公開され、個人や公衆に焦点を当てた特徴があります。一方で、低い透明性と情報の非対称性によって、信用性の高いトラストメカニズムに欠けていることがあります。権利とトランザクションの承認など、一連の複雑なプロセスはユーザーを圧倒し、特に資産の移転中に権利と利益に関する紛争を引き起こす可能性があります。

オントロジーの分散型資産管理モデルは、複数のレベルでの信用を構築します。

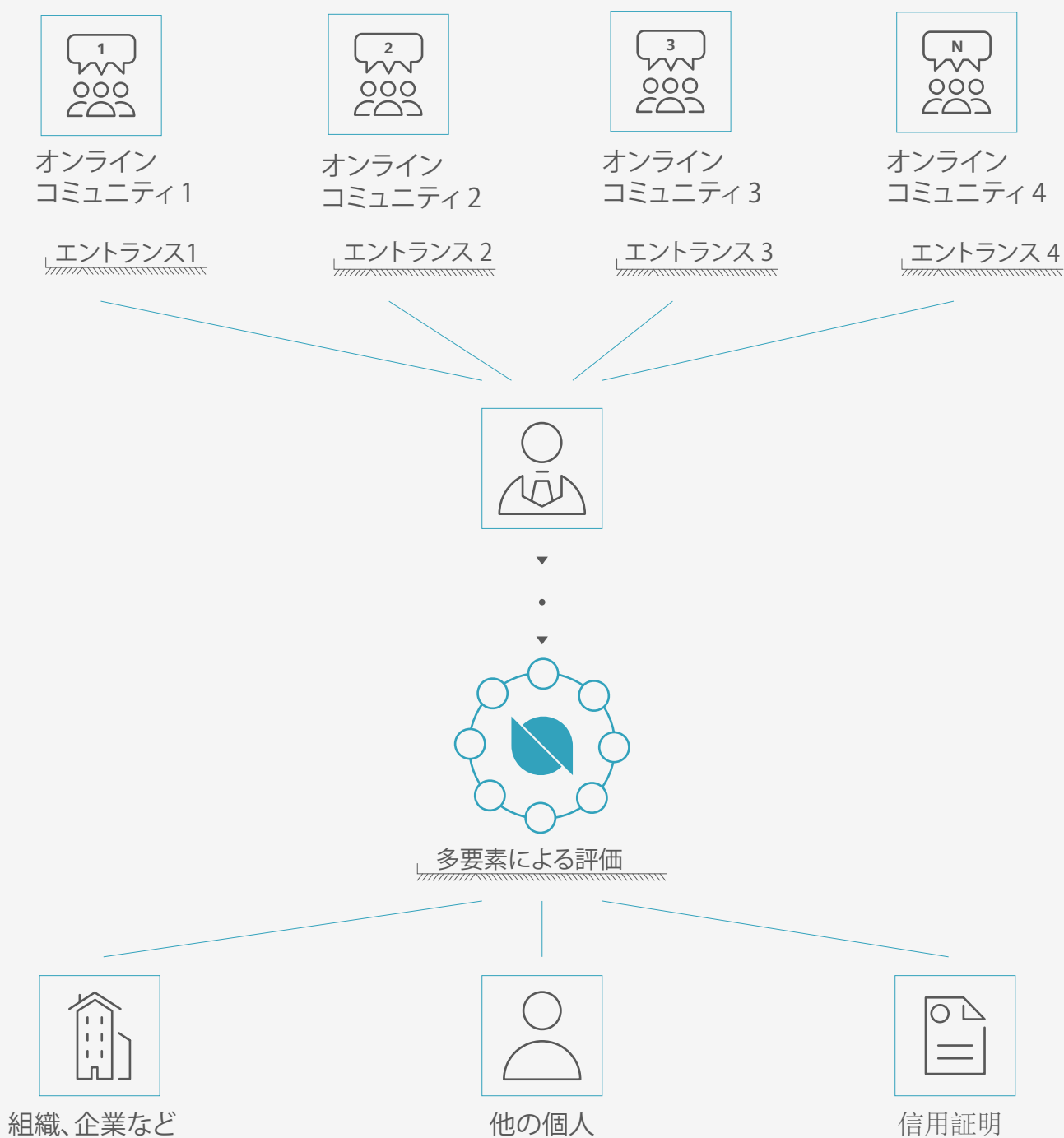
1st 効率的な資産承認

オントロジーでは、トークン化された資産管理モデルは、ブロックチェーンベースのデジタル資産の一種として、資産を管理するために使用されます。まず、資産の所有者Aが資産を投資家Bに移転した時、複数当事者による保証メカニズムにより、投資家Bの購入が確実になります。次に、移転の後に資産の所有権が承認され、ネットワーク全体のコンセンサスを得られます。オントロジーは所有者の権利と利益を迅速かつ効率的に確認します。それぞれの資産移転と権利委託は即座に同期され、ブロックチェーンネットワークに拡散されます。これが、透明性と開放性を向上させ、信用に基づく資産管理システムを確立させます。

2nd プロセス全体の記録

資産移転のプロセス全体を記録することで、ブロックチェーンは信頼できる記録と資産移転の監視を保護するのに役立ちます。権利と利益に関しての潜在的な紛争では、オントロジーは信頼できる証拠を抽出し、関係者の正当な権利と利益を保護するために使用することができます。

分散型コミュニティ管理



アプリケーションの導入

現在のコミュニティは、主に集権化されています。オントロジーは、分散型管理とコミュニティ関連の運営をサポートします。

1st 流入抑制

コミュニティマネージャーは、メンバーのコミュニティへの流入を管理することで、コミュニティを着実に構築することができます。

2nd コミュニティランキング

ユーザーは、自身のデジタル表示や他の経験の証拠(例えば、自分が管理しているJavaコミュニティグループの証明を提示している人)をコミュニティ管理者に提示して、承認を受けることができます。

3rd 分散型コミュニティ管理

権限がある者は、コンテンツ発行、インセンティブ、および信頼メカニズムを制御する権限を割り当てることができます。

ケーススタディ

テクニカルコミュニティ管理の事例

テクニカルウェブサイトの運用、Javaコミュニティのインスタントメッセージンググループなど、あらゆる種類のテクニカルコミュニティがあります。これらのコミュニティには2つの重要な特徴があります。

a. 共通性 (すなわち類似の値)

テクニカルコミュニティはたいていITエンジニアで構成されており、コミュニティの専門性が高ければ高いほど、そのコミュニティは強固になります。(例えば、Goコミュニティのメンバーはほぼ全員がGoソフト開発者です。)

b. 原則

ソーシャルネットワークとは異なり、コミュニティには管理人が必要です。原則を設定することが、原則を設定するのが、最も良い方法です。

オントロジーによって、以下の設計が可能です

1st 技術に関連する流入抑制

コミュニティ管理人は候補者がコミュニティの基準を満たすかを判断するために、技術的背景と資格を、信用できる検証を行うことができます。スマートコントラクトは申請者の情報を自動的に検証し、コミュニティ内で自身のステータスをすばやく確認できるように設計できます。

2nd コミュニティコンテンツ発行管理

コンテンツ発行と報酬メカニズムを設計することができます。開発動画やテクニカルQ&A、チュートリアルやいいねの数などを使って、さまざまな報酬メカニズムがブロックチェーンの記録を使って、実装することができます。コミュニティのメンバーはブロックチェーンに記録されている、彼らの公開記録に基づいて、異なる管理者権限を得ることができます。

分散型コンテンツ発行とトレードモジュール

アプリケーションの導入

オントロジーはコンテンツ制作者と消費者の間での包括的な分散型トレードシステムを導入してきました。

1st 最適化コンテンツの検索

ユーザーは、特定の評価レベルのユーザーが作成したコンテンツのみを表示するか、サードパーティにコンテンツの推奨を委任するかを選択できます。このシステムではユーザーは自分が望むコンテンツを、より公平な価格で手に入れることができます。

2nd コンテンツセキュリティの保証

ユーザーは、世界中の知的財産権に関する権利の認証、支払い、および転送を行うことができます。

オントロジーは著作権保護のための分散型管理を提供し、以下の方法によってクリエイターの権利を維持するサポートをします。

ケーススタディ

知的財産保護を例として、その問題点を以下に列挙します

a. 保護の難しさ

伝統的に著作権の登録には時間とコストがかかります。それゆえに、大半のクリエイターは知的財産を登録しないことを選択します。

b. 証明の難しさ

知的財産権の新会社はたいてい違法な事をしていることを認めるのを頑なに拒否するので、法的に認められた証拠が鍵となります。

c. 権利保護の困難

複雑なプラットフォームの苦情処理手続きや法的手続きの費用のせいで、知的財産のクリエイターは、自身の知的財産権が侵害されている時に、泣き寝入りをしています。

1st 著作権の発表

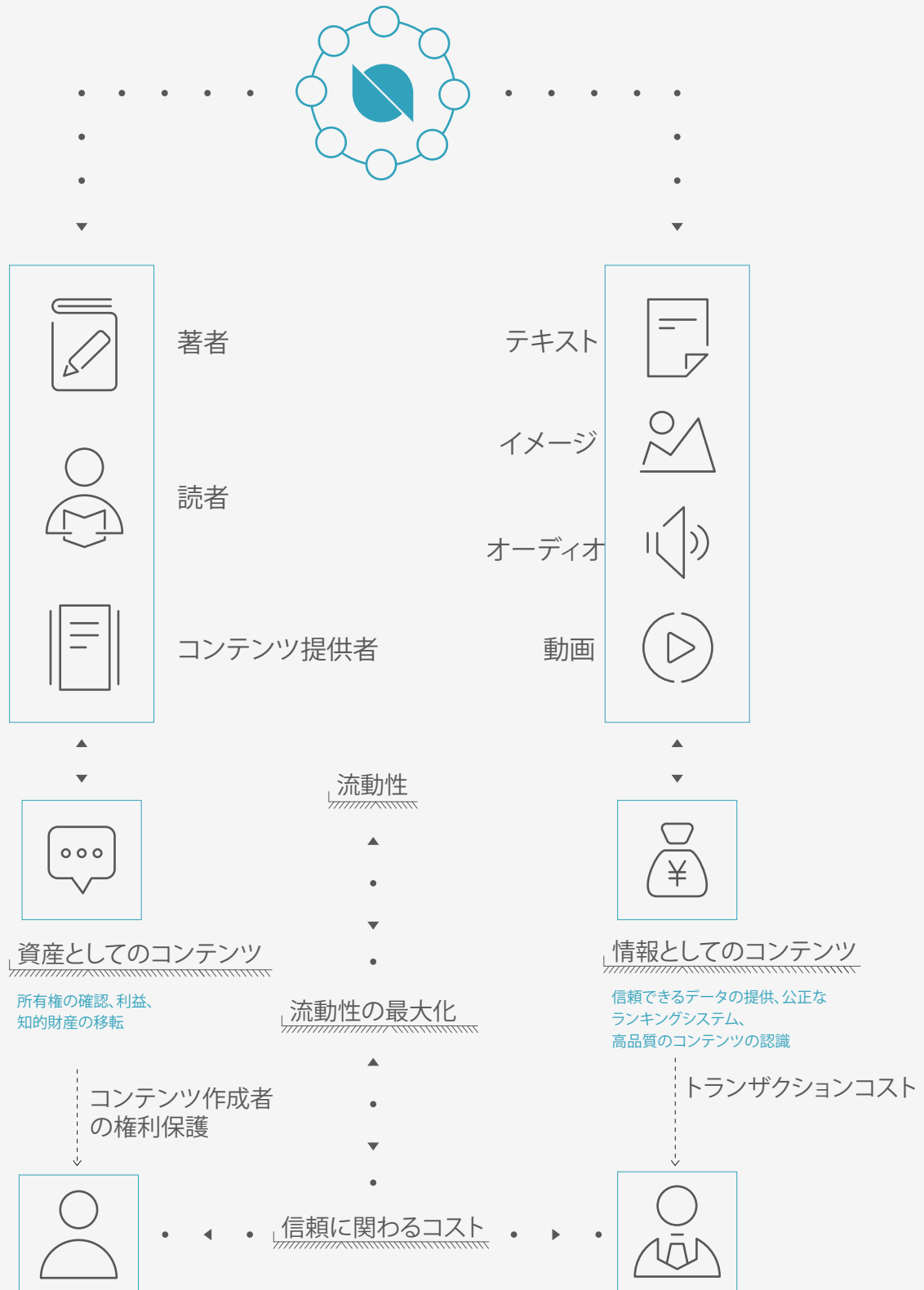
オントロジー上で所有者は作品の著作権を登録します。これは、オリジナルの著作権を始めから保護する、「デジタル ID カード」を登録したのと同等の、オリジナルとしての著作権の発表を行うことになります。

2nd タイムスタンプ証明

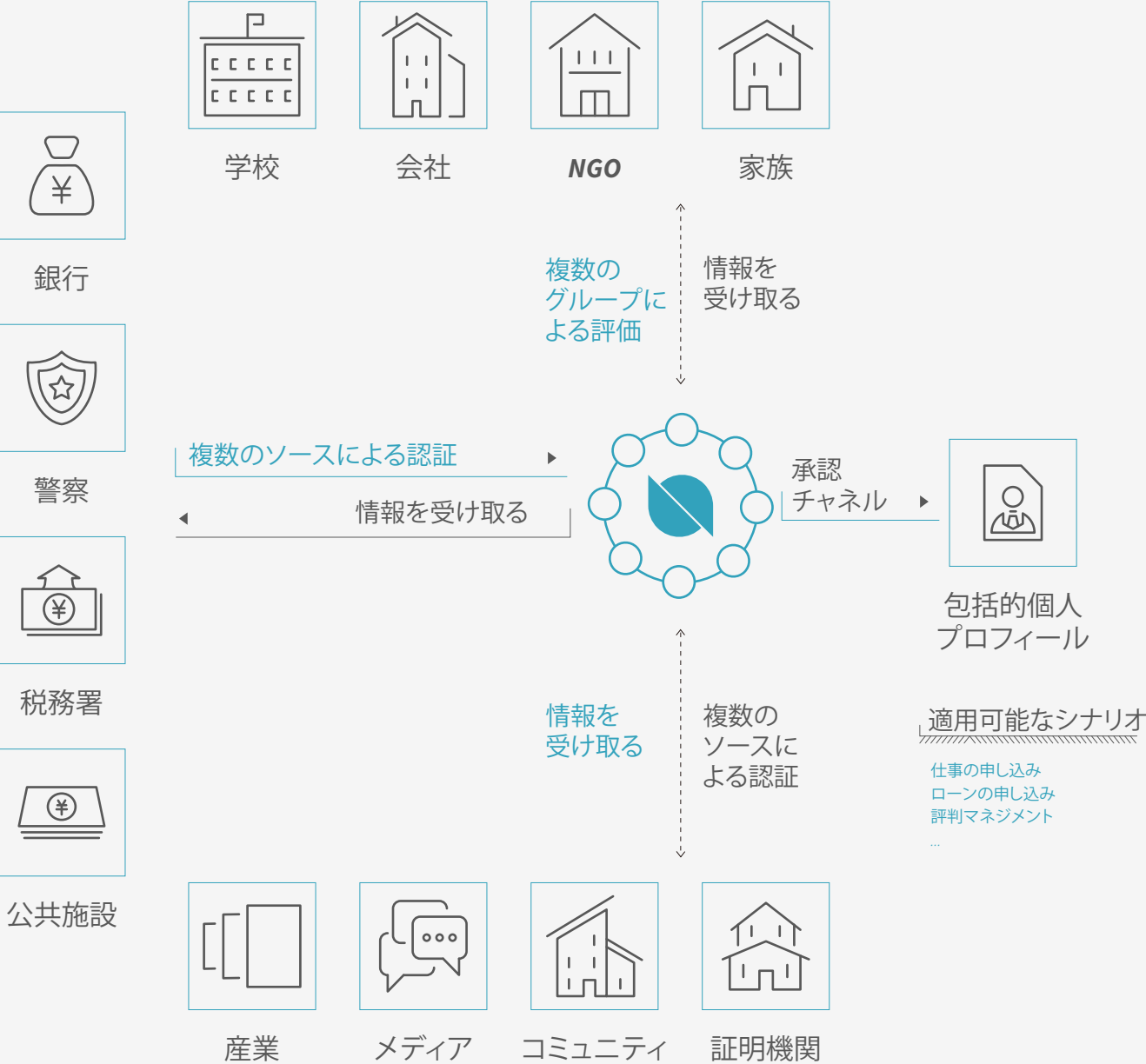
オントロジーでは、タイムスタンプはオリジナルの作品が完成し、リリースされた時間を証明するために使われます。この証拠は、訴訟の成功率を大幅に向上させ、さまざまなシナリオのニーズを満たすことができます。

3rd 法的権利保護

不正に対して法的手続きを開始する時、ブロックチェーンは従来の著作権証明書と同じ法的効力を持つ有効な証拠を提供するのに役立ちます。



分散型属性システム



アプリケーションの導入

過去の行動を通じて、将来の行動を予測することは強力なツールになる可能性があります。

1st 信用管理

オントロジーは部分的な信用や広範囲の信用を、適応可能な基準に則して評価します。

2nd データ管理

オントロジーは、部分的に集中化された管理と分散型モデルを結合させ、伝統的なシステムとのデータ連携をサポートします。

3rd 信用モデル開発

信用モデルは、コンテンツ評価や検証などのようなコンテンツ生成および交換システムと連携することで、さらに発展させることができます。

ケーススタディ

入札プロセスでは、入札者の評判が重要です。現在の入札システムは透明性、非標準的なオペレーション、そしてリソースが共有されていないという問題に直面していて、それぞれがいくつもの問題を引き起こす可能性があります。オントロジーは各当事者間で情報を共有し、透明性のある入札を促し、入札者に対して信用できる格付けを作成する安全なモデルを作るために、入札用評判管理システムをサポートします。

1st 信用情報の監査

オントロジーでは、アプリケーションパートナーは各入札者の評価管理をカスタマイズできます。情報連携によって、入札会社は資格、所属、経歴などを追跡し、信用できる検証や補足資料を確認することができます。

2nd 情報拡大

データソースを拡張し、潜在的な問題を特定するのに役立つ、入札者のための分散型上位層評価メカニズムを設計することができます。

3rd プロセス全体の記録

入札プロセス全体はブロックチェーン上に明確に、かつ透明性をもって記録されることで、入札の不正使用や入札者への返金遅延を回避できます。ブロックチェーンはまた、入札が遵守され、情報が改ざんされないことを保証します。

44

分散型包括的ファイナンシャルサービス

アプリケーションの導入

中小企業や個人は多くの場合、高い運用コストに直面しながらも、クレジット記録や担保が不足しています。これは銀行や他の金融機関にとってのリスクをより高め、それが高い金利につながります。同時に変更コストは高く、もし彼らが準拠しなければ企業の評判に対する代償となり、多面的なジレンマにつながります。

1st 財政的な側面

オントロジーはビジネスを支援し、そして企業や個人がデータの積極的な管理者になれるよう支援します。マルチソースのデータ一致と承認により、個人は容易かつ安全に金融サービスを申請するための情報を提供することができ、相手方へのリスクを軽減させることで、より公平な金利を手に入れることができます。

2nd 社会的な側面

金融機関はオントロジーと協力し、中小企業や個人により良い金利とサービスを提供するために、複数当事者のセキュリティ調整や分析メカニズムを確立することができます。

ケーススタディ

中小企業のための金融サービスの事例

1st 効果的なデータ調整

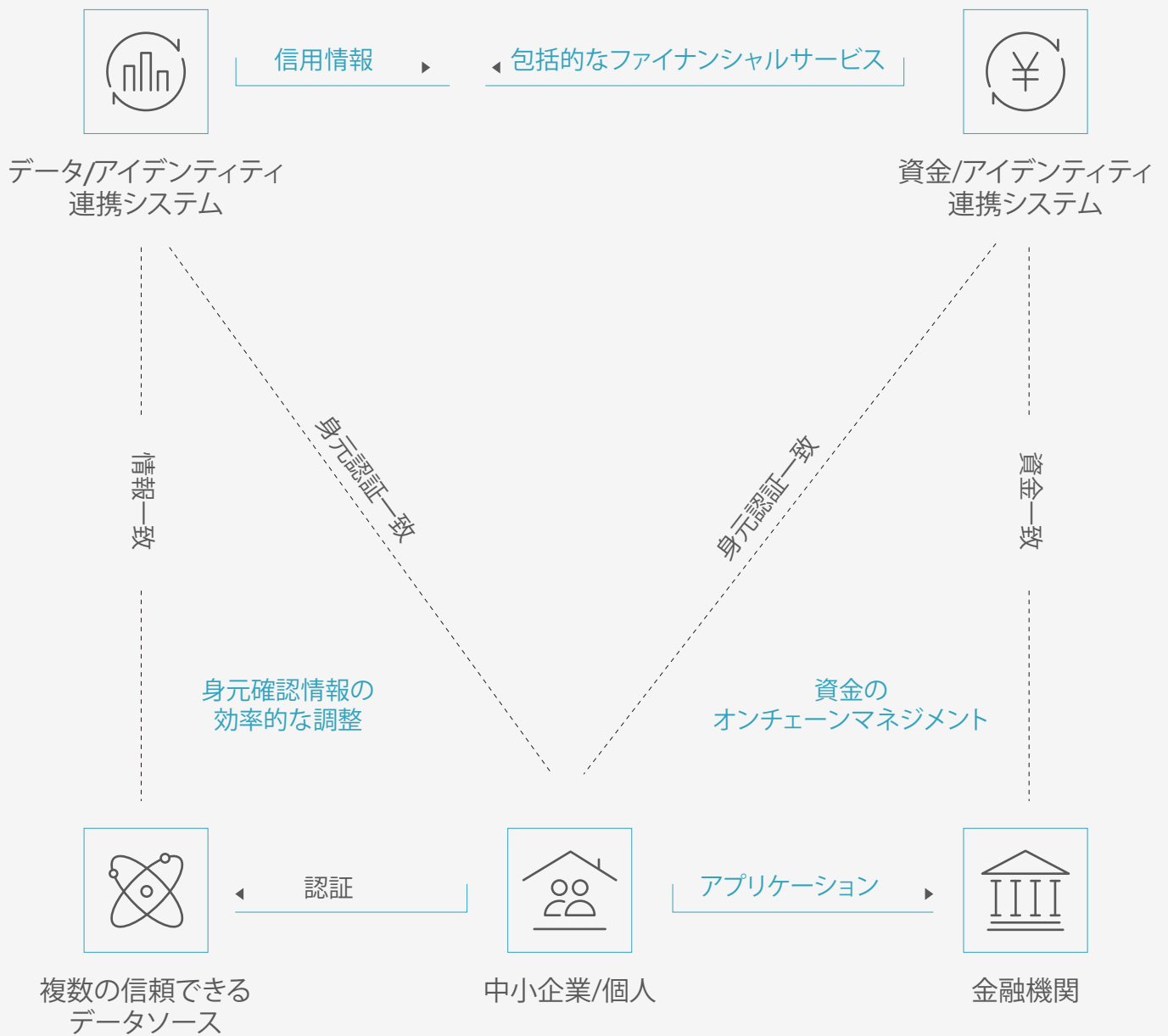
中小企業を分析する時、金融機関は効率的にデータソースと連携するためにオントロジーを使うことができます。これは既存のデータ管理モデルを変えず、現在のデータソースがまだ使うことができます。データ依頼者がデータのロケーションを尋ねた時、対応するデータリクエストを実行することができます。データ連携を通じてオントロジーはより包括的なデータの統合と中小企業のための包括的な信用イメージを促進します。

2nd データ認証メカニズム

データ依頼者はオントロジーを通じて、P2P 間のデータ転送を実行できます。

3rd チェーンベースのファンドマネジメント

オントロジーを通じて、ファンドマネジメントは低コストで、高効率になります。資金の流れは全て記録されます、つまり複数当事者によって、維持されているチェーンが中小企業の融資、資金の承認、返済をカバーし、資金の流れの信頼性を保証することを意味します。デジタルファンドとオフラインファンドを紐づけることで、リアルタイムでの資金の現状確認、レビュー、及び調整を可能にします。



46

オントロジーは、事業主が分散型ネットワークやブロックチェーン、暗号化に関する事前知識なしでも、幅広いシナリオの分散型インフラを提供することができます。掲載されている以下のものが、オントロジーから恩恵を受けることができる業界です。

ファイナンス

1

トレーディング
資産管理
先物取引
担保管理
サプライチェーンファイナンス

支払い

2

マイクロペイメント
国際的なB2B
送金
税務申告と徴収
本人確認(KYC)
マネーロンダリング防止法 (AML)

保険

3

クレーム申請
クレーム処理とアドミン
不正検知
テレマティックスと格付け
デジタル認証

消費者

4

シェアリングエコノミー
サプライチェーン
医薬品の追跡
農作物の認証
ロジスティックス管理

IoT

5

デバイス間決済
自動化された運営
グリッド管理
スマートホーム管理
オフィス管理

より多くの適用可能なシナリオ

デジタル権利管理
作品認証
広告掲載
広告クリック不正使用の削減
真正な資産の再販売

メディア

仕事のミクロ化
仕事の支出
開発者が直接広告掲載の支払を行う
広告掲載APIプラットフォーム
広告掲載の公証と認証

ソフトウェア開発

記録共有
処方箋共有
多要素認証
個人最適化された医薬品
DNAシーケンシング

医療

ダイヤモンド
デザイナーブランド
自動車リースと販売
住宅ローン
土地所有権
資産のデジタル化

資産項目

投票
車両登録
利益配分
著作権
学歴証明

政府

あとかき

このホワイトペーパーはオントロジーのトラストエコシステムの開発方針について記載しています。しかし、トラストエコシステムの構築は壮大で根気のいる作業です。それゆえに、オントロジーはあらゆるタイプのテクノロジーパートナー、アプリケーションパートナー、貢献者、そしてボランティアが積極的に、公共プラットフォームのためにできることで参加して、貢献することを望んでいます。

同時に、オントロジーはさらにまた、エコシステムパートナーと一緒に努力をすることで、すべての人々が信頼という情報を利用可能にすることを望んでいます。
